資料１

黒沢洞合自然公園整備検討委員会　資料

目指す公園像の検討

１．前回会議までの経過　……　1

２．目指す公園像の検討　……　2

３．どこに何をつくるかの検討　……　3

補足資料１　水の利用・河川との境界部の処理に関する資料　……　4
補足資料２　見晴らしスポットに関する資料　……　6
補足資料３　ゾーン区分・空間構成の手がかり　……　8
補足資料４　駐車場・トイレの位置及び空間構成の検討　……　9

令和５年８月２１日

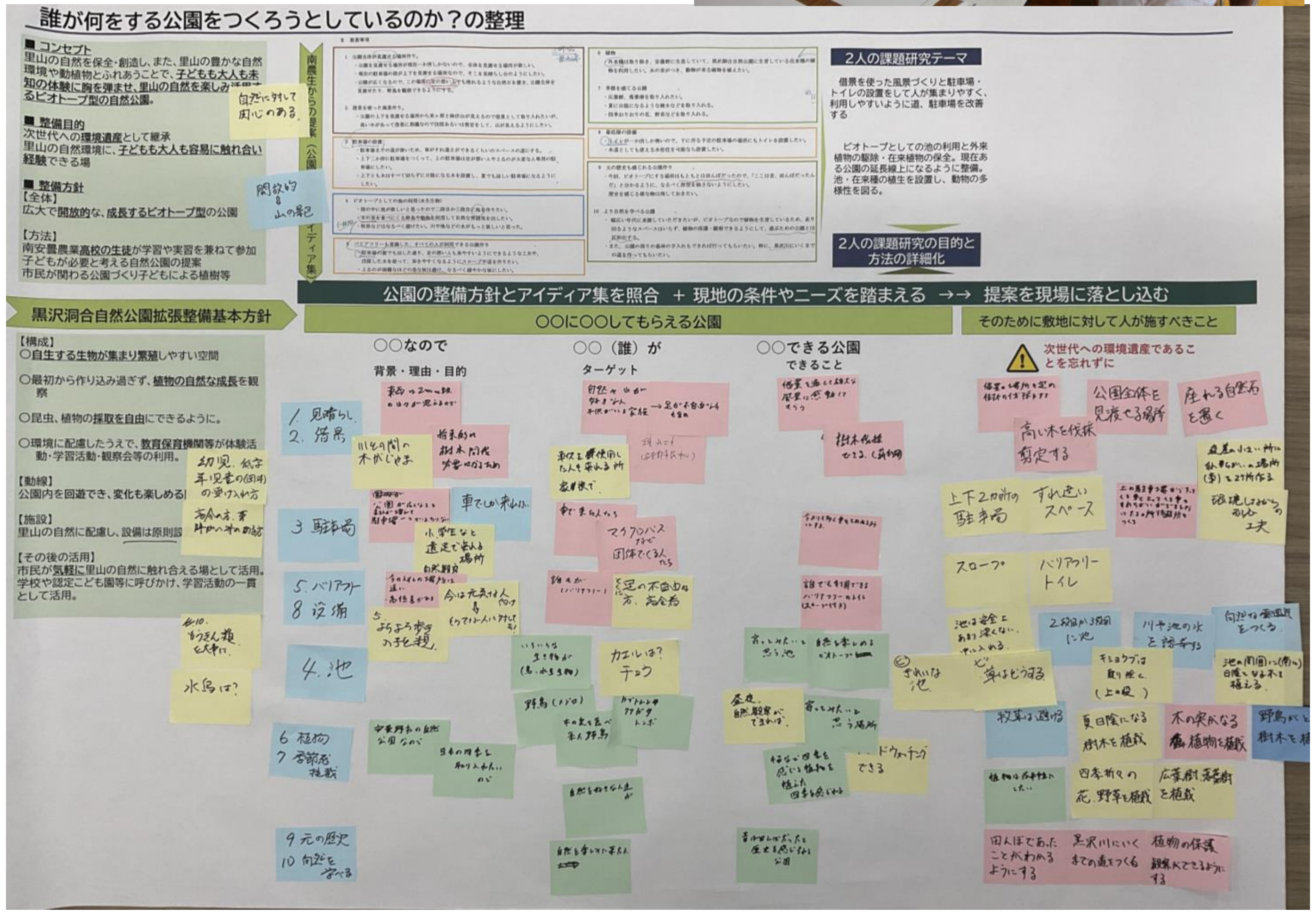
株式会社　ＫＲＣ

1．前回会議までの経過整理

7/28　南農での打合せ

○検討委員会の基本方針と7月までに検討した南農生からの提案を一体的にとりまとめるため、『誰が何をする公園をつくるのか』について整理

○付箋への記入作業等も行いながら作成



委員会向けに図面も用いて整理

8/8
本年度第1回検討委員会に提示

右ページを掲出して意見交換

追加すべき視点や検討を要する課題等について指摘をいただいた

2．誰が何をする公園をつくろうとしているのか？の整理

黒沢洞合自然公園拡張整備基本方針

■ コンセプト
里山の自然を保全・創造し、また、里山の豊かな自然環境や動植物とふれあうことで、子どもも大人も未知の体験に胸を弾ませ、里山の自然を楽しみ活用するビオトープ型の自然公園。

■ 整備目的
次世代への環境遺産として継承
里山の自然環境に、子どもも大人も容易に触れ合い経験できる場

■ 整備方針
【全体】
広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園

【方法】
南安曇農業高校の生徒が学習や実習を兼ねて参加
子どもが必要と考える自然公園の提案
市民が関わる公園づくり
子どもによる植樹等

【構成】
○自生する生物が集まり繁殖しやすい空間
○最初から作り込み過ぎず、植物の自然な成長を観察
○昆虫、植物の採取を自由にできるように。
○環境に配慮したうえで、教育保育機関等が体験活動・学習活動・観察会等の利用。

【動線】
公園内を回遊でき、変化も楽しめる園路

【施設】
里山の自然に配慮し、設備は原則設置しない。

【その後の活用】
市民が気軽に里山の自然に触れ合える場として活用。
学校や認定こども園等に呼びかけ、学習活動の一貫として活用。

【南農生提案】○○が○○できる公園　具体像 / **その実現に必要なハードとソフト**

○○なので 背景・理由・目的	○○(誰)が ターゲット	○○できる公園 できること	ハード	ソフト
H17整備でいろいろな生き物を呼び寄せた	色々な生き物 トンボ　クワガタ カエル カブト　チョウ 水鳥・野鳥	寄ってきたくなる場所・池	◆二段目か三段目に池 ◆木の実を食べにくる野鳥や動物を利用して自然な雰囲気を創出	
	猛禽類	餌場になる		
			○牧草などはなるべく回避 ○外来種は取り除き現地に生育する在来種の植物を利用	
安曇野市の自然公園なので	木の実を食べにくる野鳥たち	寄ってきたくなる場所	◆木の実がつき、動物が来る植物を植栽 ◆広葉樹、落葉樹の植栽 ◆夏に日陰になるような樹木の植栽 ◆四季おりおりの花、野草	公園周りの森林の手入れ
	自然の好きな人たち（自然とのふれあいを深めたい世代も）	四季を感じる		
昔はたんぼだった土地		田んぼの面影を感じる	◆昔たんぼだったを想起させる原型を崩さない造成。 ◆歴史を感じる要素を残置	
ビオトープ型の自然公園	こどもたち	観察と合わせて入れる池 昼夜の自然観察 遊ぶための公園とは区別 バードウォッチング 川に近づける	◆日陰のある涼しい池	
東西2000m級の山を眺められる場所 三郷最高峰の黒沢山	自然や山が好きな人たち	借景に感動	◆現在の駐車場の段を見晴らし台的空間にあわせて足の悪い人でも座れる自然石ベンチの設置 ◆黒沢山と美ヶ原・鉢伏山を借景とした広場（東側の樹木の伐採含む）	
将来的に間伐も必要	市民中心	樹木を伐採して薪利用		伐採樹木の循環(薪)利用
遠足で来れる場所	小学生等 マイクロバスでの団体来園	団体で来ても車を停めることができる	◆上下2か所の駐車場。日陰になる木のある夏でも涼しい駐車場	
公園が広くなることで来る人たちを受け入れるには駐車場不足 車もすれ違いえない	自動車でここに来たいという人たち	すれ違いができ安心して車を停められる	◆車の退避スペースのある進入路（ただし公園区域のみ）	
現在の公園は元気な人向き	そうでない人たちに対しても	歩いて自然にふれあえる公園	◆トイレ新設（下に作る駐車場の場所へ）バリアフリー型のバイオトイレ	
公園が広くなることで既存の便所までの距離が遠くなる	足の不自由な方（高齢者等） 車椅子を使用した人も	安心して公園で過ごすためのトイレやスロープがある	◆足の不自由な方にも配慮したスロープや園路(上るのが困難なほどの急な坂は避ける） ◆黒沢川にいくまでの道（園路）	

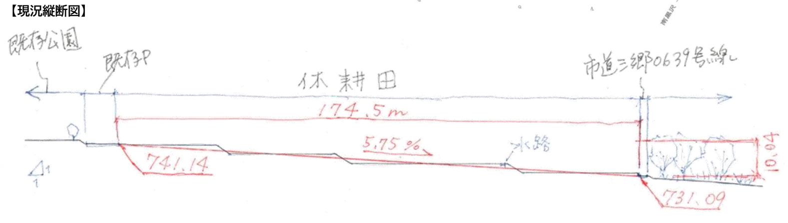
3-3

3．どこに何をつくる、何をするとよいかの整理

現地で確認して共有した認識　南農生提案　今後の検討課題

【ハード面での検討課題】
◆視線　樹高　⇒広場位置・形状
◆水面の規模・水の流れ（水辺の移入種対策含む）
◆待避所とP位置　◆バイオトイレ
◆地形造成の水準

【現況縦断図】



3-4

２．目指す公園像の検討

8/8　検討委員会の提案・指摘等

黒沢洞合自然公園拡張整備 基本方針

■ コンセプト
里山の自然を保全・創造し、また、里山の豊かな自然環境や動植物とふれあうことで、子どもも大人も未知の体験に胸を弾ませ、里山の自然を楽しみ活用するビオトープ型の自然公園。

■ 整備目的
次世代への環境遺産として継承
里山の自然環境に、子どもも大人も容易に触れ合い経験できる場

■ 整備方針
【全体】
広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園

【方法】
南安曇農業高校の生徒が学習や実習を兼ねて参加
子どもが必要と考える自然公園の提案
市民が関わる公園づくり
子どもによる植樹等

【構成】
○自生する生物が集まり繁殖しやすい空間
○最初から作り込み過ぎず、植物の自然な成長を観察
○昆虫、植物の採取を自由にできるように。
○環境に配慮したうえで、教育保育機関等が体験活動・学習活動・観察会等の利用。

【動線】
公園内を回遊でき、変化も楽しめる園路

【施設】
里山の自然に配慮し、設備は原則設置しない。　↑トイレは最低限設ける必要がある ④

【その後の活用】
市民が気軽に里山の自然に触れ合える場として活用。
学校や認定こども園等に呼びかけ、学習活動の一貫として活用。

○○が○○できる公園　具体像　【南農生提案】

○○なので（背景・理由・目的）	○○(誰)が（ターゲット）	○○できる公園（できること）
	色々な生き物　←食物連鎖を考えて設定する ①	
H17整備でいろいろな生き物を呼び寄せた	トンボ　クワガタ　カエル　カブト　チョウ　水鳥・野鳥　猛禽類	寄ってきたくなる場所・池　餌場になる
安曇野市の自然公園なので	木の実を食べにくる野鳥たち	寄ってきたくなる場所
	自然の好きな人たち（自然とのふれあいを深めたい世代も）	四季を感じる
昔はたんぼだった土地	↑自然に関心のない人たちにも	田んぼの面影を感じる
ビオトープ型の自然公園	こどもたち ③-1　↑こどもがくると親やじじばばが一緒にくる	観察と合わせて入れる池　昼夜の自然観察　遊ぶための公園とは区別　バードウォッチング　川に近づける　夜の星空観察
開けた空のある空間　東西2000m級の山を眺められる場所　三郷最高峰の黒沢山　将来的に間伐も必要	自然や山が好きな人たち　市民中心	借景に感動　樹木を伐採して薪利用
	人に危害を加えるものを排除しないと団体は呼べないのでは？↓ ②･③-2	
遠足で来れる場所	小学生等　マイクロバスでの団体来園	団体で来ても車を停めることができる　ここまで来るような保育園はなかなかないのでは？ ③-2
公園が広くなることで来る人たちを受け入れるには駐車場不足　車もすれ違いえない	自動車でここに来たいという人たち	すれ違いができ安心して車を停められる
現在の公園は元気な人向き	そうでない人たちに対しても	歩いて自然にふれあえる公園
公園が広くなることで既存の便所までの距離が遠くなる	足の不自由な方（高齢者等）　車椅子を使用した人も	安心して公園で過ごすためのトイレやスロープがある
使ってよいエリアが見た目ではわかりにくい（とくに川との境界） ⑤		

その実現に必要なハードとソフト

ハード	ソフト
① 貴重な植物などの保全、昆虫等の食草の確保	
◆二段目か三段目に池　◆木の実を食べにくる野鳥や動物を利用して自然な雰囲気を創出	① 命の連鎖、つながりを伝える
○牧草などはなるべく回避　○外来種は取り除き現地に生育する在来種の植物を利用	
◆木の実がつき、動物が来る植物を植栽　◆広葉樹、落葉樹の植栽　◆夏に日陰になるような樹木の植栽　◆四季おりおりの花、野草	←クマ、サル等の有害鳥獣への対応（黒沢川上流部での対策、サル追い） ②　公園周りの森林の手入れ
◆昔たんぼだったを想起させる原型を崩さない造成。　◆歴史を感じる要素を残置　◆日陰のある涼しい池	
コナラ、クヌギを市民参加で植栽 ①	命のつながりを学べる　暮らしとのつながりを学べる　人の暮らしとの関わりを伝える（間伐・動植物の利用）　例）クララの草木染めによる利用
◆現在の駐車場の段を見晴らし台的空間にあわせて足の悪い人でも座れる自然石ベンチの設置　◆黒沢山と美ヶ原・鉢伏山を借景とした広場（東側の樹木の伐採含む）	伐採樹木の循環(薪)利用
◆上下2か所の駐車場。日陰になる木のある夏でも涼しい駐車場	
◆車の退避スペースのある進入路（ただし公園区域のみ）	
◆トイレ新設（下に作る駐車場の場所へ）バリアフリー型のバイオトイレ	
◆足の不自由な方にも配慮したスロープや園路（上るのが困難なほどの急な坂は避ける）	
◆黒沢川にいくまでの道(園路)　柵やﾌｪﾝｽでエリア範囲を明示する必要もあるのでは？ ⑤　↑川へのアプローチ方法	

8/8委員からの提案【要約】
これまでの南農生からの提案にはない事項

①生き物どうし・人と生き物の関係
生き物の相互関係や食物連鎖について、人との関係を伝える役割を担う公園としての整備(ハード)や活用(ソフト)の方策が必要

②大型哺乳類への対応
クマも出る場所ではあるため、相応の対策は必要になる

③―1　対象とする人
自然に関心の薄い人たちにも訪れてもらいたい。とくに子供たち。

③-2、④、⑤は次ページ参照

3．どこに何をつくるかの検討

③ー2　団体の学習利用
団体がバスで駐車場まで訪れるような場をつくるには大きな造成が必要になるため、上流側の県道で下車して歩く等の対応を考える方向で検討（＝バス対応通行路や駐車場は整備しない）

⑥駐車場
駐車場の位置、規模に関しては意見が複数あり

④トイレの整備
基本方針に設備は原則設置しないとあるが、トイレに関しては既存施設の老朽化も踏まえ、新設等を考える必要がある。

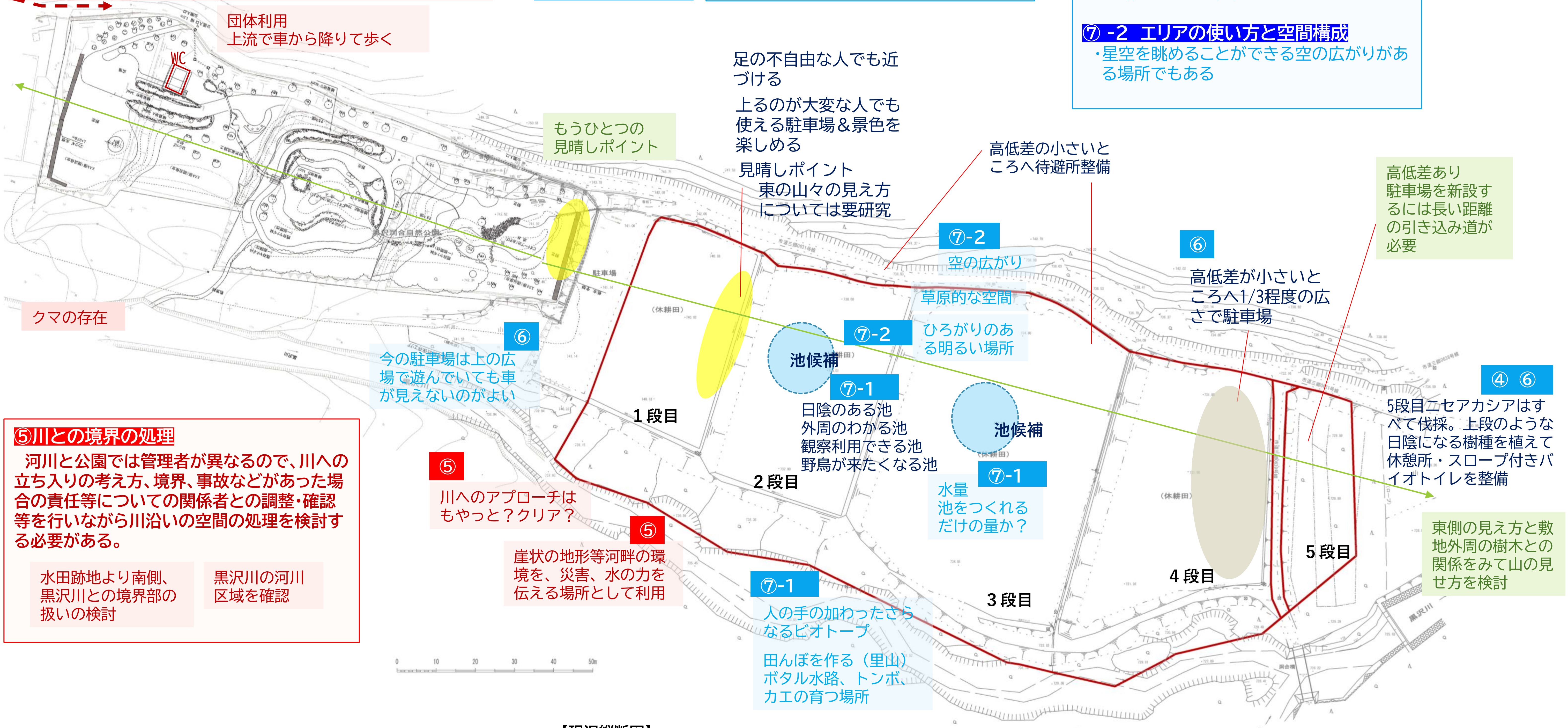
⑦ー1　水の利用とビオトープの創出
・池を念頭に置くか、手を加えながら維持するようなビオトープ空間（例:田んぼ、ほたる水路のような空間）とするか

⑦ -2　エリアの使い方と空間構成
・星空を眺めることができる空の広がりがある場所でもある

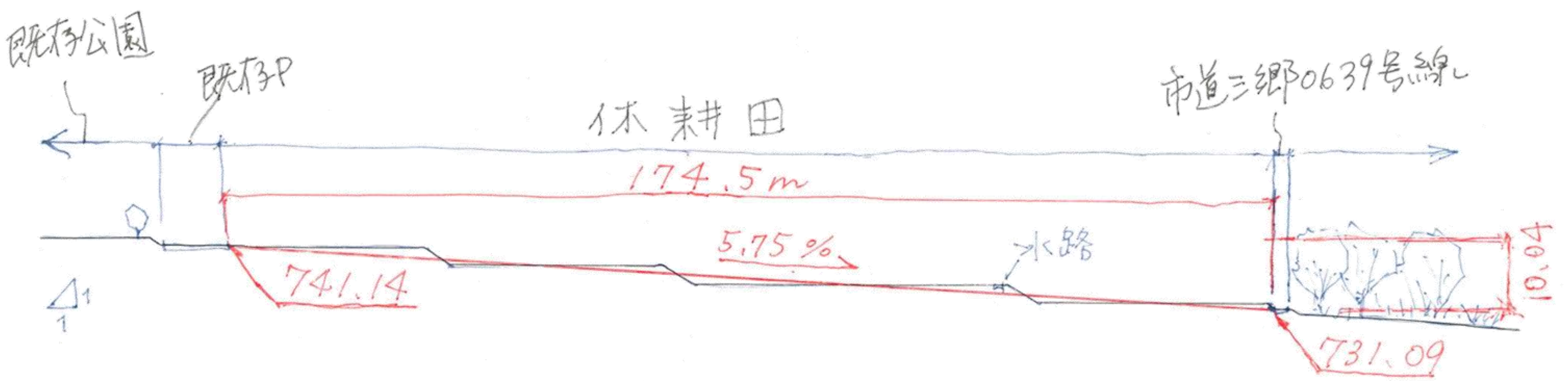
⑤川との境界の処理
河川と公園では管理者が異なるので、川への立ち入りの考え方、境界、事故などがあった場合の責任等についての関係者との調整・確認等を行いながら川沿いの空間の処理を検討する必要がある。

水田跡地より南側、黒沢川との境界部の扱いの検討

黒沢川の河川区域を確認



【現況縦断図】



【文字色等凡例】

8/8委員からの提案【要約2】
これまでの南農生からの提案にはない事項

8/8委員からの提案と南農生提案で複数の案がある事項

南農生提案（7/28段階）

7/14　現地で確認して共有した認識

西
東
南
①
取水口
A＝0.0063㎡
V＝0.9382m/s
Q＝0.0059m3/s （毎秒6リットル相当）
勾配　2.01％

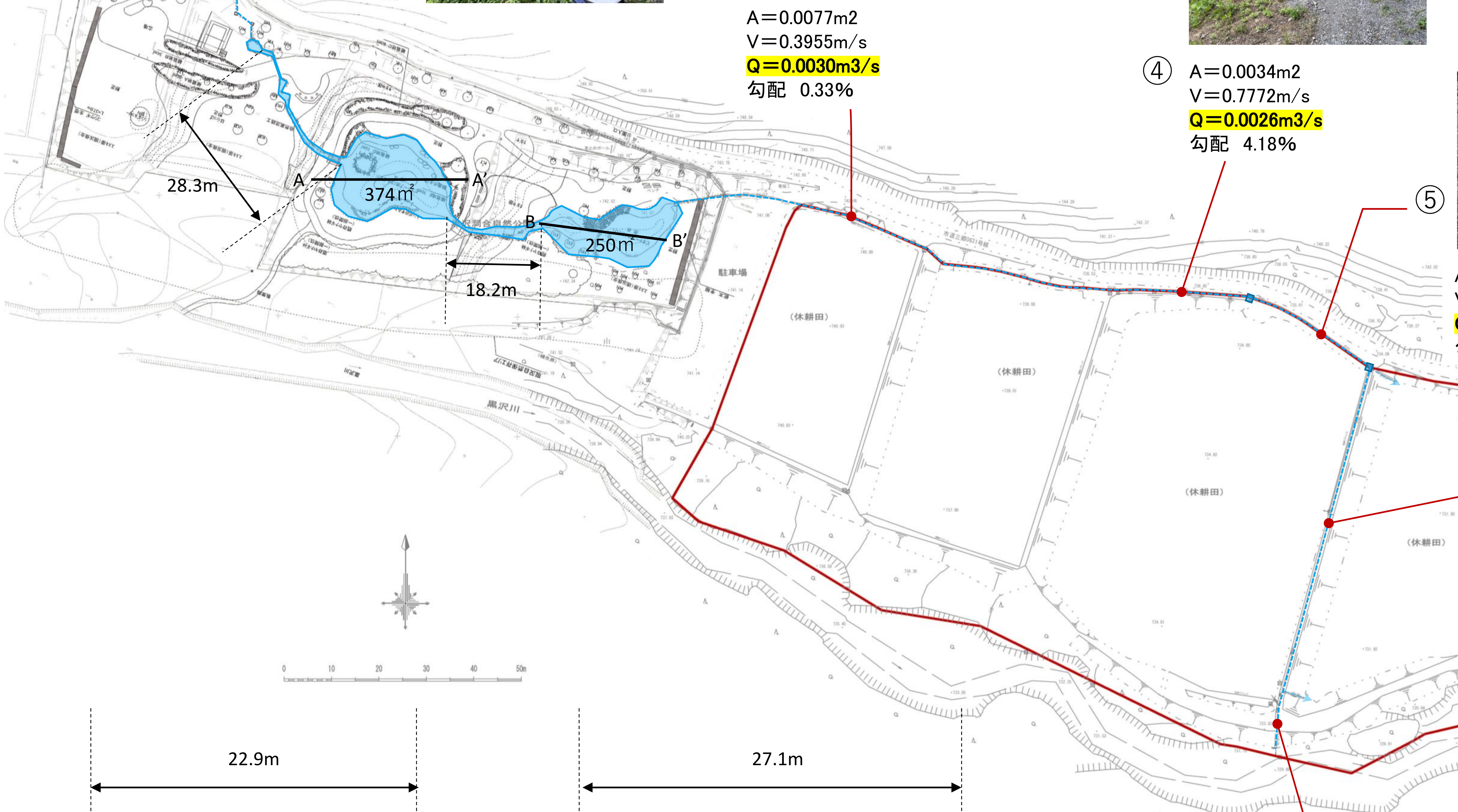
北黒沢橋

U240

BF250

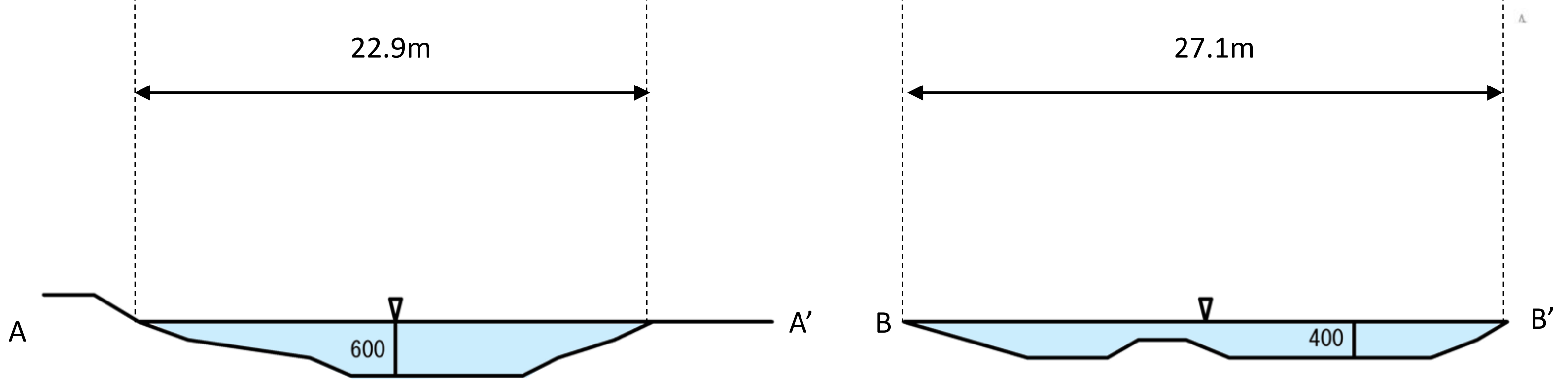
BF300

BF350



BF350

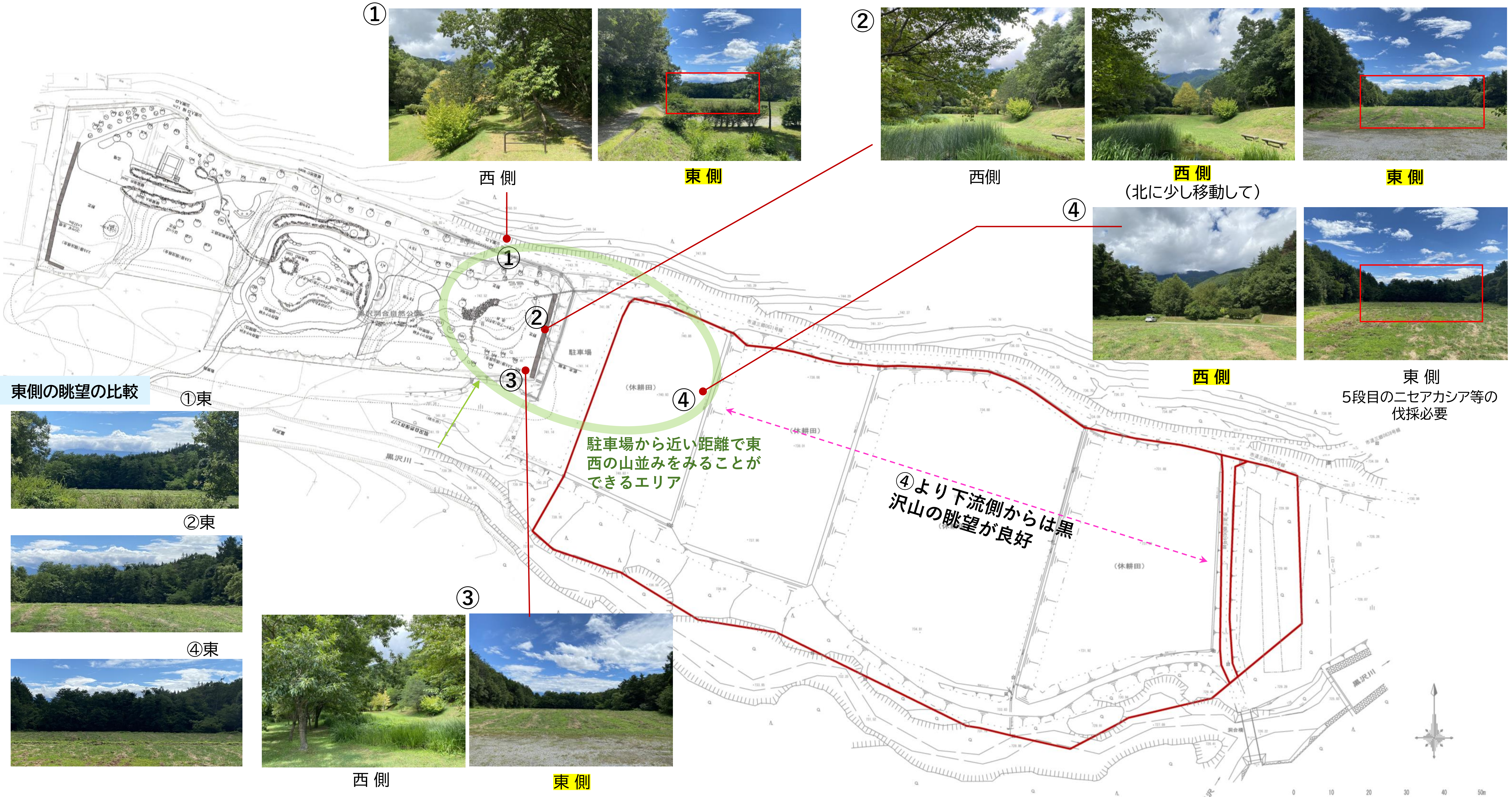
BF350



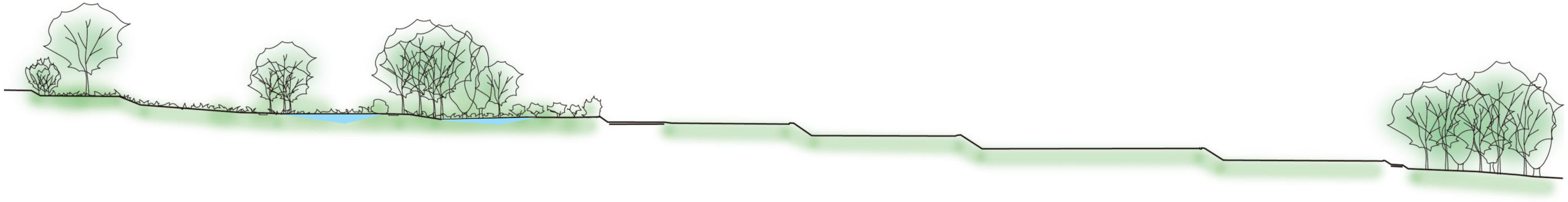
池断面図

補足資料２　見晴らしスポットに関する資料

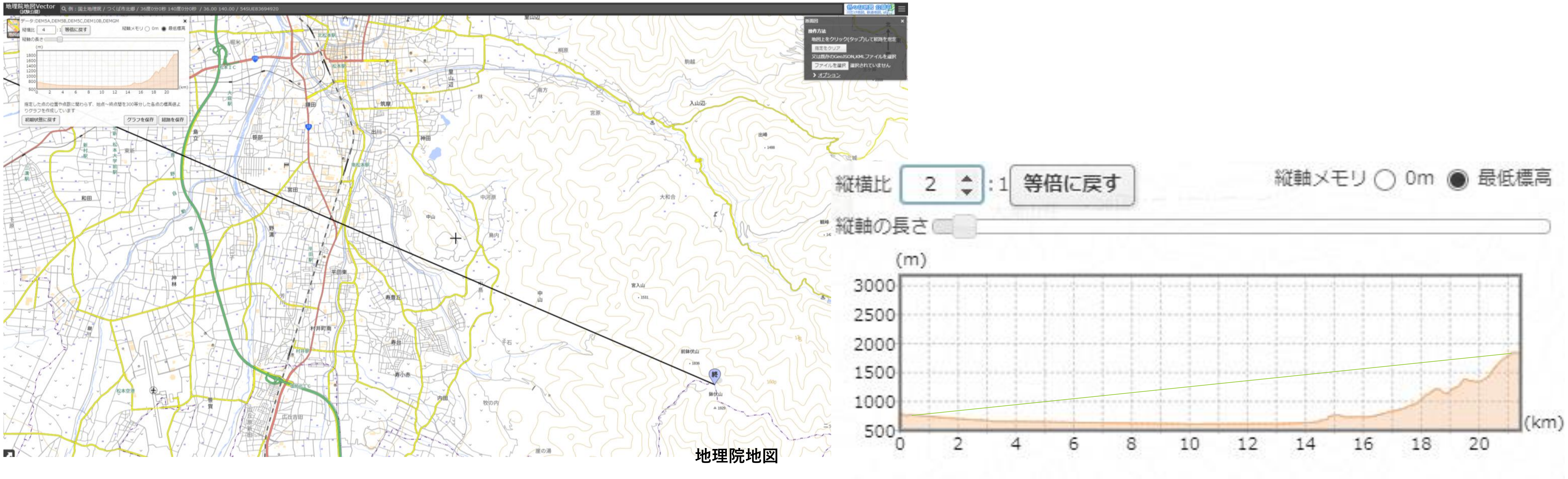
前景の樹木を伐採せずとも山並みを見ることができる場所



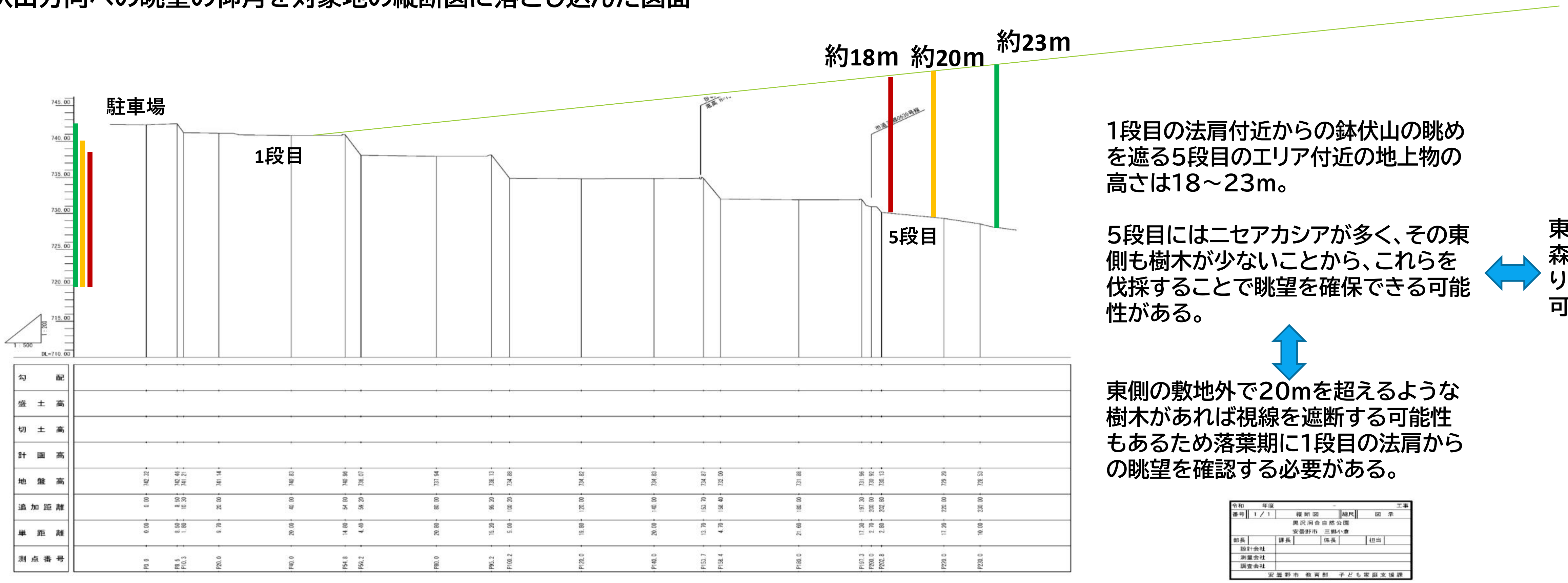
【断面図でみる公園全体の空間構成】



東側の山並みの眺め確保のための条件分析



地理院地図で生成した断面図から得られる
鉢伏山方向への眺望の仰角を対象地の縦断図に落とし込んだ図面



1段目の法肩付近からの鉢伏山の眺めを遮る5段目のエリア付近の地上物の高さは18～23m。

5段目にはニセアカシアが多く、その東側も樹木が少ないことから、これらを伐採することで眺望を確保できる可能性がある。

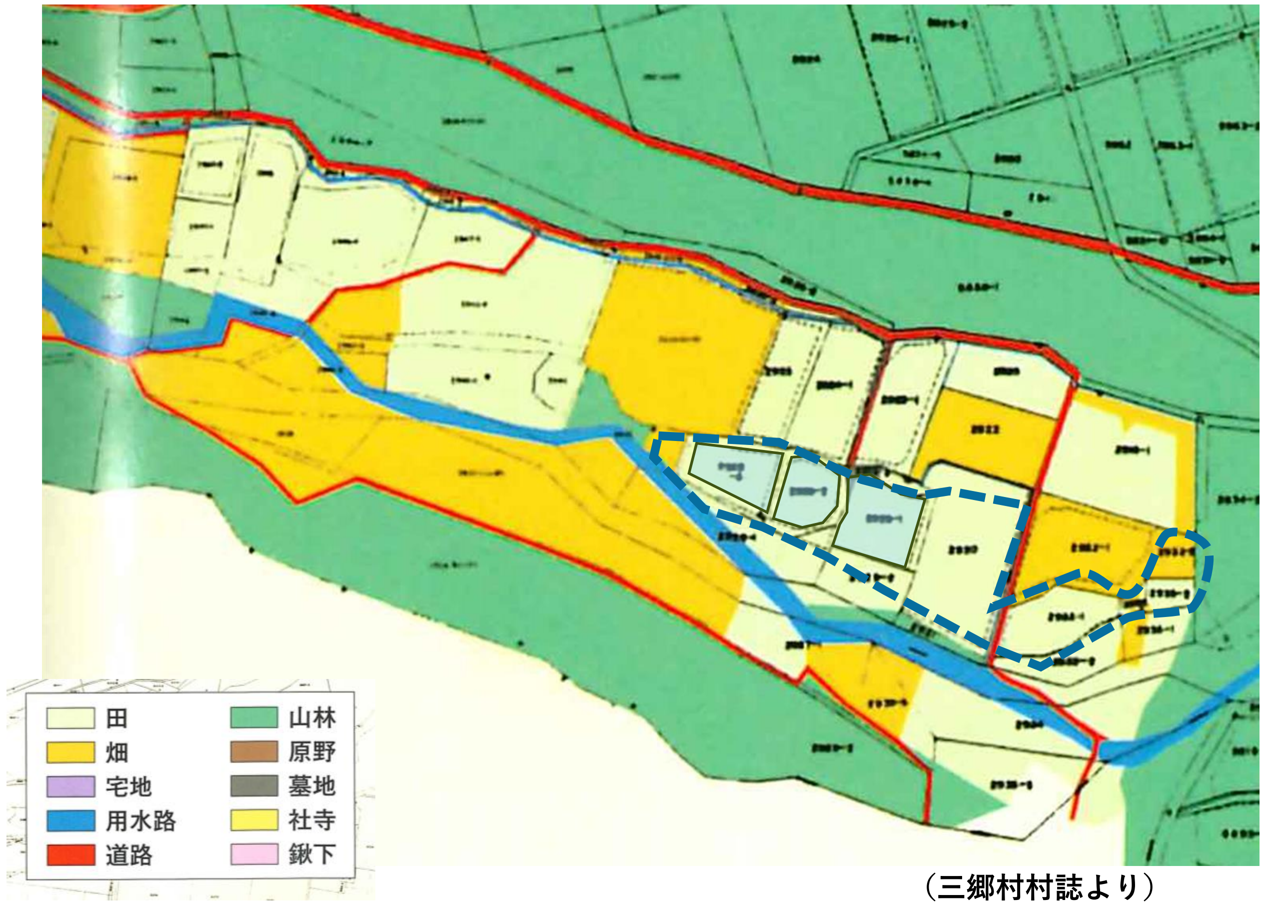
東端の樹木を残すことで、森に四方を囲まれたぽっかりとした空を眺めることも可能。

東側の敷地外で20mを超えるような樹木があれば視線を遮断する可能性もあるため落葉期に1段目の法肩からの眺望を確認する必要がある。

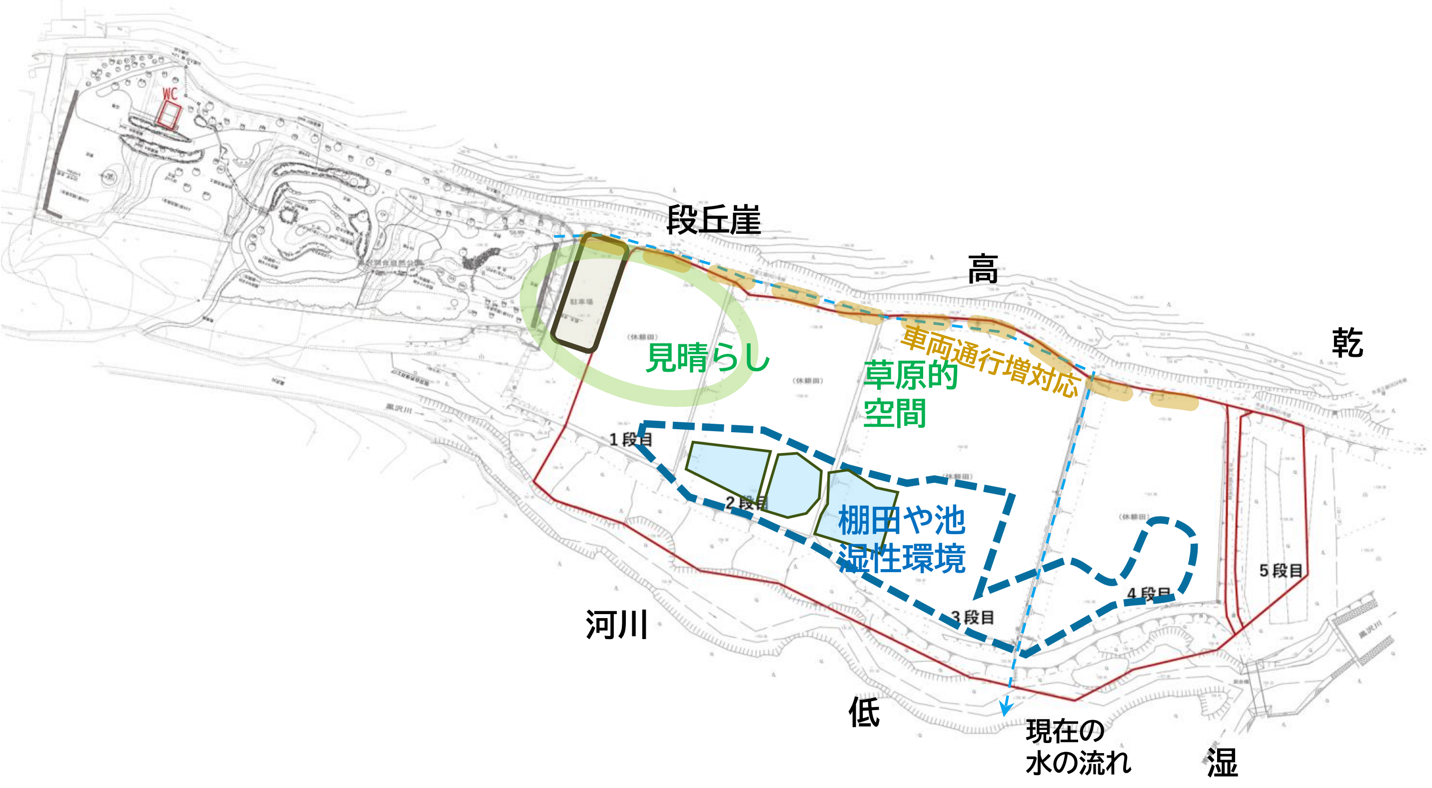
補足資料３　ゾーン区分・空間構成の手がかり

昭和49年に圃場整備される以前の土地の使い方は、
古くから続いた洞合の環境の基盤。この土地割を
敷地の空間構成に反映させることも方法の一つ。

明治22年景観図



（三郷村村誌より）

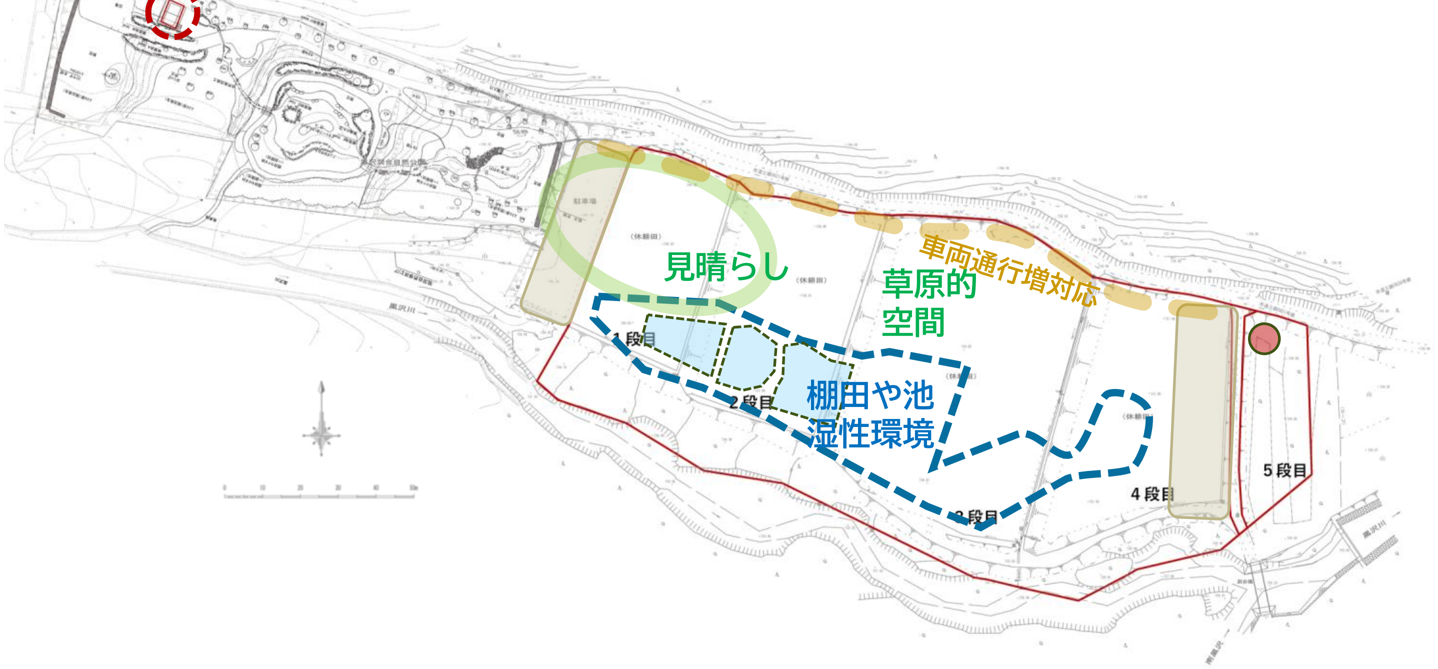


補足資料４　駐車場・トイレの位置及び空間構成の検討

前ページの「空間構成の手がかり」を仮に設定した場合のトイレと駐車場の位置について複数ケースを列挙。

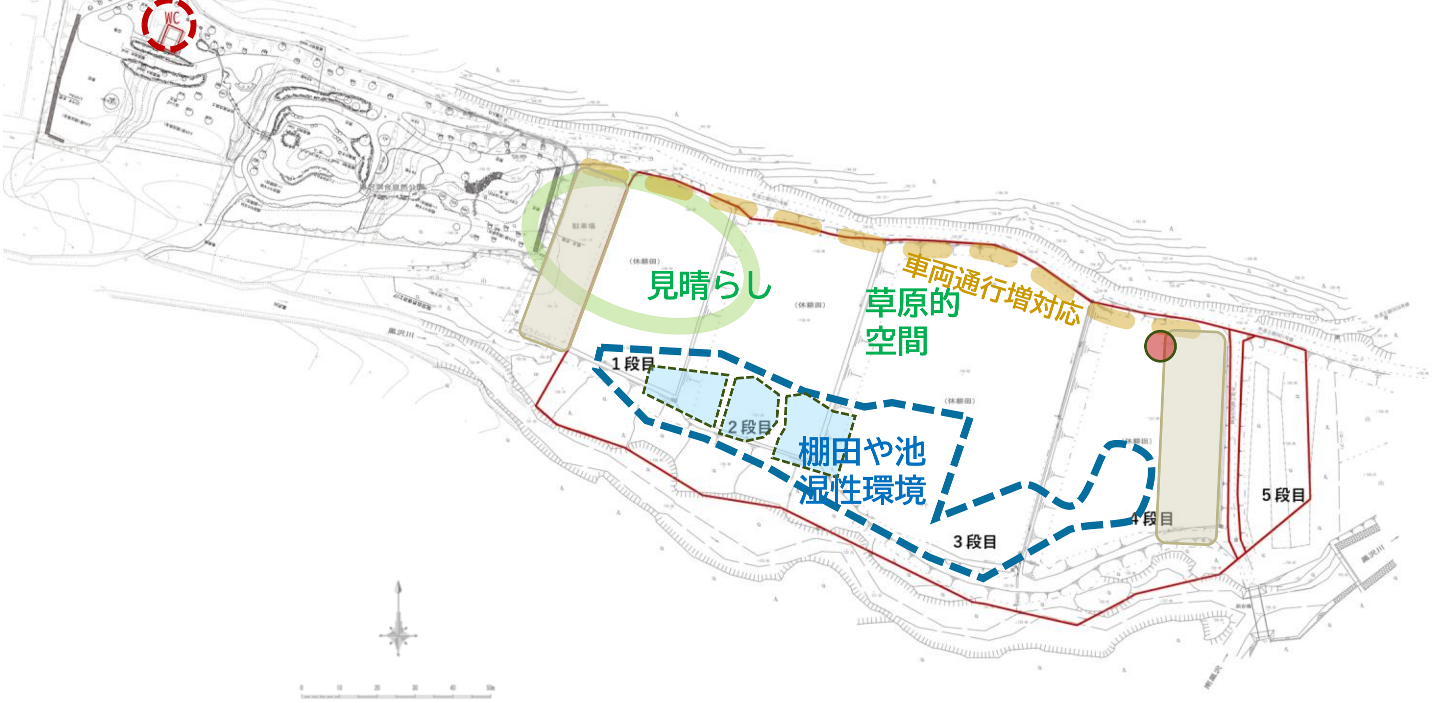
ケーススタディ❶

上段の駐車場・トイレは現状維持。
4段目に駐車場の増設。5段目にトイレと木陰の休憩スペース確保



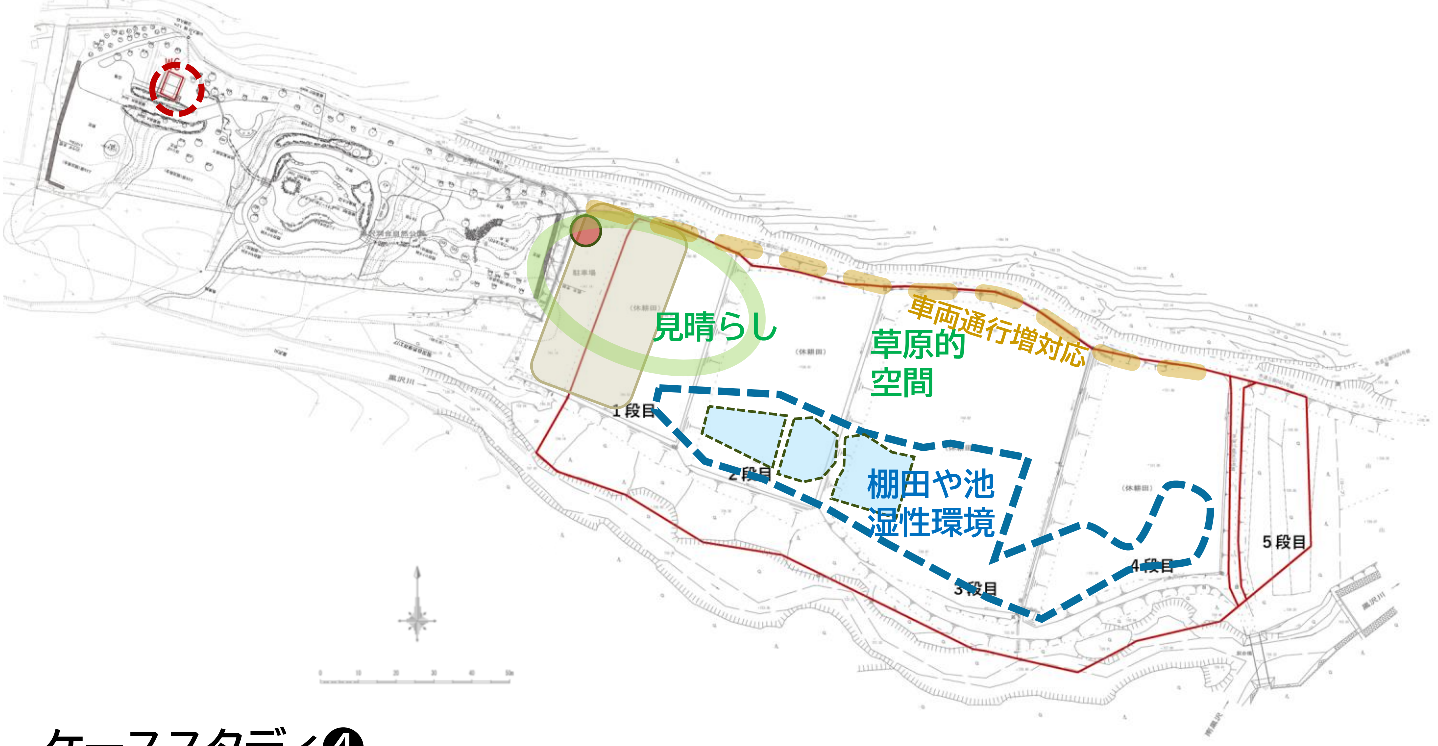
ケーススタディ❷

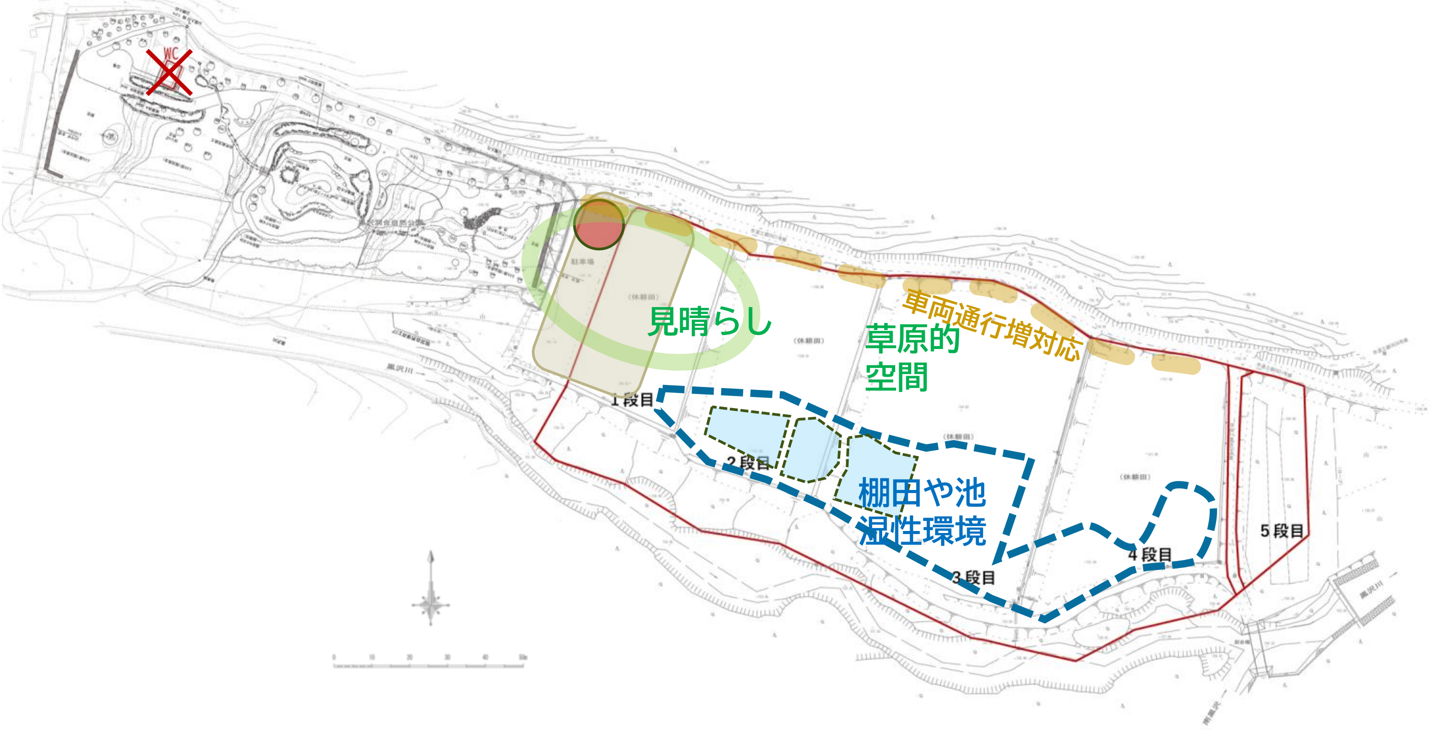
上段の駐車場・トイレは現状維持。4段目に駐車場・トイレを増設。



ケーススタディ❸

上段トイレを残し、中央の駐車場を拡張するとともに近くにトイレを整備。



ケーススタディ❹

トイレと駐車場を公園の中央部に集約。
上段のトイレは廃止。